

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500054		
法人名	医療法人社団 恒仁会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 プラタナス		
所在地	岐阜県各務原市那加前洞新町4-49		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JOC=2190500054&amp;SOC=730&amp;POD=21">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JOC=2190500054&amp;SOC=730&amp;POD=21</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その利用者様の状態に合わせた柔軟な対応をしている。</li> <li>・ご家族や地域の方々を交えた行事の開催をしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域との交流が活発で「こども110番」として登録し、子どもや地域住民が自由な出入りが日常的に行われ、利用者や職員も頻繁に往き来し活動場面が広がっている。運営推進会議には、地域の福祉推進員、苦情受付第三者委員も入り、ヒヤリハットも率直に報告し前向きな助言や意見で検討している。かかりつけ医と24時間の看取り体制ができており、直近の家族から感謝の手紙が寄せられている。管理者は現場を知る事により、利用者や職員との意思疎通ができ良好な関係を築いている。母体経営者が年1回、個々の職員と面談し意見を聞いたり、全職員が一同に会した懇親会を設け良好な人間関係が築けるよう配慮している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切にし、健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、毎朝確認し業務にあたっている。	利用者は地域のなかでの人生の先輩で尊ばれる存在であるという理念のもとで、利用者の思いやペースを尊重した介護を日々実践している。管理者や職員は申し送り時に毎日唱和し、名札ケースに常時入れておき、常に確認し介護している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方に職員として来ていただくことにより、顔なじみの関係がすでにあり、安心感が得られている。また、地域の行事に参加したり、してもらったりする関係が築けている。	事業所案内を兼ねた掲示板は地域住民が自由に利用でき、地域での生活を重視した連携の場としている。行事での行き来のみならず、子どもや住民が帰宅途中や畑作業の合間に立ち寄り常に地域交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や包括支援センターの主催する地域ケア会議などへの参加により事例を発表したり提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用状況や取り組みについて報告をし、それについての意見をいただいている。いただいた意見については職員にも報告しサービスこうじょうにつなげる努力をしている。	家族が参加しやすいよう季節で時間を変更したり、行事と一緒に開催している。地域の福祉推進員・苦情受付第三者委員等も参加し、ヒヤリハットの報告をし、意見を聞き助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者へ報告や相談を行い指導を受けている。	同種事業所の連絡会議や地域ケア会議で市の担当者と定期的に意見交換を行い、いつでも相談や助言が得られる関係がある。市の要請で管理者が地域の会議に出向き、事業所の機能や役割を説明している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離床センサーを購入し、夜間の見廻り体制を整えたり、居室の配慮をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関にセンサーマットを敷き、外出希望の利用者には職員が付き添い、玄関や門扉は一切施錠せず開放している。些細なヒヤリハット内容も全職員で検討し、第三者の助言を得て事故の原因を追究し拘束しない介護をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時研修に参加し学んでいる。包括支援センター・主治医等と連携を図り対応している。		

プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員がなるべく理解出来る様、随時研修に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項説明書を説明させていただき理解・納得いただいてから契約をしていただいている。質問等についてはその場ではもちろん、随時お受けするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を正面に設置しているが利用はない。苦情をいただいた時には内容を職員へ周知し今後の対応に注意するようにしている。	訪問や通所利用時に体調確認と共に家族に意見や要望を聞くよう働きかけている。独居で遠方の家族にはFAXや電話で把握している。出された意見は申し送りノートで職員に周知し、職員会議で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングには運営者・管理者も必ず出席し、職員一人ひとりの意見を聞くように努めている。	職員から出た意見は回覧し、夜間開催の職員会議で検討している。利用者の乗降場所の改善や陶器の食器に変更している。管理者は現場に出る事により、職員の業務把握に努め、意見が気軽に言える雰囲気作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加、内部研修の実施など研修機会を確保している。年次昇給、資格取得者には資格手当を支給するなども行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や県の福祉総合センターが主催する研修など順番に参加できるようにしている。新人チェックリストを用いて新人教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に参加し同業者との交流や情報交換を行なっている。また、包括主催の地域ケア会議には毎月参加し、他職種や民生委員などともつながりを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅へ訪問し事前にご本人の声に耳を傾けるように努めている。契約前にはお試し利用をしていただいたりし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅へ訪問したり、実際にサービス提供の場を見ていただいたりし、話し合いの機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを作成し、他のサービス利用も含め総合的に情報収集を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯等を利用者と共に行なったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎時に話しをお聞きしたり、家族会などを開催し家族とより話せる機会を設けている。また、担当の介護支援専門員といつでも連絡が取れる体制を作り信頼関係の構築を努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活パターンを出来るだけ変えないよう、馴染みのスーパーへ買い物に行ったりしている。	利用者の意向を尊重し、地域での生活の延長として、地域のふれあいサロンに参加している。行き慣れた場所の商店で買い物や喫茶店に外出し、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、通い利用日を調整したりしている。		

プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も時々、電話連絡を入れたり行事にお誘いしたりし関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ご利用者さまの声に耳を傾けるように努めている。	日々の関わりのなかで思いや意向を聞いている。把握が困難な場合は、発した言葉や行動を家族の協力を得て、思いの把握に努めている。喫煙の習慣がある人には、椅子とテーブルを置き喫煙場所を設置している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時前に情報を収集し、全体ミーティングで得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に過ごす中での気づいた事や状態を申し送りノートに記載する事により一人が得た情報であっても職員全員が共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本意の介護計画が作成出来るように契約前によく話し合いを持っている。変化があった時など現状に合わせたサービスを提供するようにしている。	利用者や家族の意見・要望を事前に聞き、職員の話し合いで出来ることの目標を定め、介護計画を作成している。家族を含めて状態変化時や定期的な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りに記入し、職員が情報を共有し、介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な泊りや夜間の訪問等にも対応している。		

プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の職員やボランティアに入ってもらい、安心して過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ケアプラン作成時や変化があった時はかかりつけ医に報告し指示や留意事項を伺うようにしている。	多くの利用者が母体である医院をかかりつけ医としている。緊急を要する場合は協力医の診察を受け、受診結果はFAX等でかかりつけ医と事業所・家族に報告し情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	服薬や健康観察など医療に関わることはもちろんその他、気づいた点も報告し、看護師の判断で適切に受診などおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は地域医療連携室等に速やかに連絡をとり現状の確認や退院前の調整を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針を、主治医・家族・職員で話し合い、職員全てに周知した。	契約時に事業所の方針を説明している。身体状態に合わせ往診や点滴を受け、家族・職員・協力医・医療機関等とその都度話し合いを設け、看取りも4・5例ある。かかりつけ医と24時間の連携があり、家族と共に安心して看取る体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し事態に備えている。また、消防署員の指導のもと救急訓練をおこなった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回、避難訓練を行っている。夜間を想定とした避難訓練を実施し、近隣職員や近隣ボランティアにも参加して頂き、災害に対する意識を高めている。	利用者と一緒に地域住民も参加して夜間想定した避難訓練を実施し、会議等で地域との協力体制を話し合っている。非常時に備え自衛消防隊を編成し、救命訓練を全職員が受けている。	

プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務マニュアルに記載し、言葉かけや対応については注意している。	職員の気づきは連絡ノートで回覧し、利用者個々の呼称を工夫し、人格の尊重に配慮している。誇りやプライバシーを損ねるような言葉には、それがなぜいけないのか、職員が納得できるよう説明し話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定できることはしていただくよう、促し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にしたい事や必要な事を優先し出来るだけ希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容院に行く事が出来ない利用者様には事業所に出張してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	契約時に嫌いな物や食べられない物をお聞きして出さない配慮をしている。	利用者一人ひとりの好みや量もその人に合わせ会話を楽しみながら食事ができるよう支援している。利用者の希望を聞き行事食を取り入れたり、外食に出かけているが、利用者の持つ力を活かす場面がない。	職員は1テーブルに一人ずつついて、利用者のペースを乱さない配慮をしているが、利用者に献立の意向を聞いたり、準備・片付けをしたり、個別の力を活かす工夫をされたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは委託業者が立てている。また、食事摂取量や水分摂取量を記録し、特に水分摂取量が足りない場合は摂取を促している。特に入浴後などはスポーツドリンクなどで水分補給を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力や状態、意欲に合わせ、介助が必要な場合は介助している。		

プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表にチェックをし誘導が必要な方に対しては誘導をかけている。出来るだけトイレで排泄できる様に支援している。	個別の排泄パターンを把握し、さりげない声かけや見守りを行い、自立に向けた支援をしている。意思表示の出来ない利用者は、時間をみてトイレ誘導を行い、立位不安定な人は二人介助でトイレ排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表を確認し、何日も排便がないときは主治医に相談したり、水分を多く摂ってもらう等対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方には声かけを工夫したりタイミングをはかり入浴出来るように支援している。	利用者や身体状況により職員や時間を変えて、機械浴・足湯での入浴もしている。利用者手作りの季節のハーブ入浴剤・柚子・菖蒲湯等で入浴を楽しんでいる。入浴後はスポーツドリンクにて水分補給をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活ペースをお聞きし、それに近い状態で過ごしてもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や未薬がない様に必ず複数の職員でチェックをしている。薬情報としてファイルをつくり活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味に合ったレクリエーションを提供する事を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、ドライブ、近所への散歩など希望に合わせて戸外へ出る機会を多く作っている。	ボランティアの協力を得て事業所周辺をリハビリを兼ねて日常的に散歩している。利用者との会話を楽しみながら、季節の花見・紅葉狩り・初詣等に出かけている。商店への買い物や喫茶店等に日頃から外出している。	



プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問サービスの利用により買い物に同行し、利用者の意思で買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	在宅が基本であるので特に支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広間には植物を置いて落ち着けるようにしている。居室は光や音が気にならないように完全な個室になっている。	居間・食堂は利用者が動きやすく家具を配置し、臭気もなく清潔に保ち、季節の観葉植物を置き家庭的な雰囲気をつくっている。居間のホールにソファを置き、利用者が談話したり、食後横になりくつろげるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやソファベッドなどを置き、皆さんと過ごしたり、横になって休める空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の多い方は自分の時計やラジオなど使い慣れたものを側に置き過ごされている。	使い慣れた毛布・枕・ラジオ・寝間着等を持参し、落ち着いて過ごせる配慮をしている。固定した居室を基本とし、利用者の希望に合わせて湯茶を準備し、安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように扉に『トイレ』と大きな文字で貼ったり、浴室には暖簾をかけて認識できるようにしている。また、廊下には手すりを設置し歩行が安全にできるようにしている。		